

平成26年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年3月12日

上場会社名 株式会社 オービス
 コード番号 7827 URL <http://www.orvis.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年3月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 中浜 勇治
 (氏名) 井上 清輝
 TEL 084-934-2621

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年10月期第1四半期の連結業績(平成25年11月1日～平成26年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年10月期第1四半期	2,158	△2.9	△27	—	△58	—	25	—
25年10月期第1四半期	2,222	△14.2	△25	—	△45	—	△47	—

(注) 包括利益 26年10月期第1四半期 26百万円 (—%) 25年10月期第1四半期 △29百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年10月期第1四半期	14.69	—
25年10月期第1四半期	△27.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年10月期第1四半期	9,064	304	3.4	175.91
25年10月期	9,445	278	2.9	160.64

(参考) 自己資本 26年10月期第1四半期 304百万円 25年10月期 278百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年10月期	—	—	—	—	—
26年10月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年10月期の連結業績予想(平成25年11月1日～平成26年10月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,944	△16.4	△34	—	△72	—	△78	—	△45.54
通期	8,691	△20.9	△79	—	△176	—	114	—	66.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年10月期1Q	1,732,000 株	25年10月期	1,732,000 株
-----------	-------------	---------	-------------

② 期末自己株式数

26年10月期1Q	855 株	25年10月期	855 株
-----------	-------	---------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年10月期1Q	1,731,145 株	25年10月期1Q	1,731,311 株
-----------	-------------	-----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき算定した見通しであり、今後の経済状況の変化及び様々な要因によって、実際の業績は予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定等につきましては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
継続企業の前提に関する注記	8
株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成25年11月1日～平成26年1月31日)のわが国経済は、アベノミクス効果による為替円安や内需の回復等を背景に自動車・部品関連企業や合理化効果の出た電機関連企業等を中心に製造業の企業業績が急速に回復し、上場企業の平成25年4月～12月期の連結決算では製造業の全17業種の経常利益が前年同期比で2桁以上の増益となる等、景気は総じて好調に推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは産業用太陽光発電の受注獲得と確実な施工に注力すると共に、木材事業の合理化を推し進めながら製品販売価格を上げることで適正な利益の確保に努めてまいりました。

また、当社の連結子会社TUI MARITIME S.A.が保有する木材専用運搬船の売却を決定し、第3四半期において売船に伴う特別利益が約6億90百万円見込まれることとなり、財務体質の改善・強化に寄与することとなりました。

木材事業におきましては、輸出用梱包材が低迷を続けたものの、住宅・建設関連を中心とした国内物流用の木製パレットや土木建設仮設用材、通信関連用の電線ドラム用材等の荷動きに回復が見られ、梱包用材の受注環境は若干の明るい兆しが見えてまいりました。

しかしながら、為替は1米ドル100円を超える円安が続き、中国の旺盛な購買意欲によって原木FOB価格も上昇傾向にあり、原材料コストは総じて高止まりの状況が続きました。

このような環境のもと、採算性の低い姫路工場を操業停止とし、利益率の高い本社工場へ生産を集約することを決定し、合理化を推し進めることで収益性の改善を図ることいたしました。これに伴い姫路工場の操業停止に向けた減産により、足元の梱包市場の需給バランスが改善され、製品の適正な販売価格への引上げが進むことで利益率が更に改善されることとなりました。

その結果、売上高は16億2百万円(前年同四半期比100.6%)、営業利益は19百万円(前年同四半期は営業損失9百万円)となりました。

ハウス・エコ事業のハウス部門におきましては、震災復興、消費税の駆け込み需要及びアベノミクス効果による公共工事や設備投資の増加により、建設業界の受注環境は好調のまま推移いたしました。

このような環境のもと、長年プレハブ事業で培って来たノウハウにより顧客の細かなニーズに丁寧に対応することで、公共工事や民間の中・大型の設備投資案件の受注獲得を図ると共に、工種毎の原価管理を徹底することで利益率の向上に努めてまいりました。

エコ部門におきましては、全量買い取り制度開始当時の過熱感はなくなったものの、収益性の確実な産業用太陽光発電への企業の投資意欲は依然として底堅く、国内外の企業の太陽光発電事業への参入の発表も相次いでおり、受注環境は好調のままに推移いたしました。

このような環境のもと、遊休地を保有する企業に対して積極的に大型太陽光発電システムの導入を勧めることで大型案件の受注を図りながら、既存顧客等からの買取価格36円(税抜)を見込んだ追加の駆け込み需要に対応することで、業績の向上に努めてまいりました。

また、自社においても安定的な売電収入を見込み、遊休資産であった東海工場跡地に約2.4メガワットの太陽光発電所を建設することを決定いたしました。

その結果、売上高は3億51百万円(前年同四半期比85.5%)、営業損失は26百万円(前年同四半期は営業利益5百万円)となりました。

アミューズメント事業におきましては、景気の回復に伴い個人消費マインドも改善の兆しが見える中、サービスの基本教育の一環として店舗スタッフに接遇の資格試験を受験させ、結果を待遇に反映させることで、スタッフのモチベーションの向上とサービスの改善に努めると共に、ファミリー向けの子供アニメコスプレ衣装の写真撮影やお客様とスタッフが一緒に出演するダンス音楽の動画を作成し、SNSで公開する等「何か楽しいことが待っている」店舗づくりを行い、業績の向上を図ってまいりました。

また、不採算店舗であった後楽園店を平成26年1月末で営業譲渡し、採算性の向上を図ってまいりました。

その結果、売上高は1億83百万円(前年同四半期比94.1%)、営業利益は7百万円(前年同四半期比62.6%)となりました。

不動産事業の賃貸物件におきましては、不動産情報誌への継続的な広告を行うことにより、安定した稼働率を確保し、収益の向上に努めてまいりました。

なお、売買の引渡物件はありませんでした。

その結果、売上高は20百万円(前年同四半期比94.0%)、営業利益は12百万円(前年同四半期比87.8%)となりました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は21億58百万円（前年同四半期比97.1%）、営業損失は27百万円（前年同四半期は営業損失25百万円）、経常損失は58百万円（前年同四半期は経常損失45百万円）、四半期純利益は、特別利益に固定資産売却益15百万円及び役員退職慰労引当金戻入額70百万円を計上したことにより25百万円（前年同四半期は四半期純損失47百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して3億80百万円減少し90億64百万円となりました。その主な要因は仕掛品が2億68百万円増加し、現金及び預金が2億67百万円、受取手形及び売掛金等が2億35百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して4億6百万円減少し87億60百万円となりました。その主な要因は短期借入金が2億30百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して26百万円増加し3億4百万円となりました。その主な要因は利益剰余金が25百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年10月期の連結業績予想につきましては、平成25年12月13日の「平成25年10月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表した連結業績予想値に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、木材事業姫路工場等の減損損失及び同工場の事業構造改善費用として11億10百万円を計上したことにより11億53百万円の当期純損失を計上いたしました。これにより純資産額が2億78百万円となり、日本政策金融公庫（前連結会計年度末残高 1年内返済予定の長期借入金1億13百万円及び長期借入金4億11百万円）の借入契約に付されている財務制限条項（単体貸借対照表の純資産額11億37百万円の維持）に抵触しておりますが、日本政策金融公庫の同意を得たうえで、従来通りの返済を継続しております。

また、平成26年4月をもって採算性の低い木材事業姫路工場を操業停止とし、利益率の高い本社工場へ生産を集約すると共に、当社の連結子会社TUI MARITIME S.A. が保有する木材専用運搬船の売却を決定し、第3四半期において売船に伴う特別利益が約6億90百万円見込まれることとなり、財務体質の改善・強化に寄与することとなりました。

一方、資金面では、メインバンクを中心に既存取引銀行と緊密な関係を維持し、長期借入の実施によって事業資金の安定確保が図られております。

上記の事項により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

今後は、収益の抜本的な改善を図るべく、事業構造改善及び固定費削減に取組み、成長分野への経営資源の集中を図り、事業力の改善・強化に向けた成長戦略を推進し、業績の向上に努めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,033,624	765,736
受取手形及び売掛金等	2,577,745	2,342,151
リース未収入金	501,393	450,889
商品及び製品	263,480	236,707
販売用不動産	306,641	316,251
仕掛品	113,527	382,500
原材料及び貯蔵品	458,078	563,508
その他	210,091	105,634
貸倒引当金	△1,628	△1,671
流動資産合計	5,462,953	5,161,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	634,325	609,447
機械装置及び運搬具(純額)	799,599	804,602
土地	2,078,663	2,078,663
その他(純額)	160,394	111,944
有形固定資産合計	3,672,983	3,604,658
無形固定資産	40,214	38,944
投資その他の資産		
投資有価証券	146,313	149,407
その他	206,565	195,175
貸倒引当金	△83,676	△85,083
投資その他の資産合計	269,203	259,499
固定資産合計	3,982,400	3,903,102
資産合計	9,445,354	9,064,810

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	739,495	700,099
短期借入金	1,530,000	1,300,000
1年内返済予定の長期借入金	1,299,204	1,232,336
未払法人税等	20,522	5,006
賞与引当金	23,966	18,766
完成工事補償引当金	5,096	6,793
船舶修繕引当金	—	44,692
資産除去債務	14,753	14,000
その他	755,506	816,434
流動負債合計	4,388,545	4,138,129
固定負債		
長期借入金	4,063,048	4,023,683
退職給付引当金	142,029	148,598
役員退職慰労引当金	102,798	33,899
船舶修繕引当金	44,692	—
資産除去債務	151,156	149,538
その他	274,999	266,436
固定負債合計	4,778,724	4,622,156
負債合計	9,167,269	8,760,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	684,980	684,980
資本剰余金	512,980	512,980
利益剰余金	△942,476	△917,053
自己株式	△765	△765
株主資本合計	254,717	280,140
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23,338	24,383
繰延ヘッジ損益	29	0
その他の包括利益累計額合計	23,367	24,384
純資産合計	278,085	304,525
負債純資産合計	9,445,354	9,064,810

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年1月31日)
売上高	2,222,132	2,158,596
売上原価	1,901,733	1,876,593
売上総利益	320,399	282,002
販売費及び一般管理費	346,229	309,239
営業損失(△)	△25,830	△27,237
営業外収益		
受取利息	11	9
受取配当金	688	977
仕入割引	362	280
作業屑等売却代	361	6,122
債務時効益	3,035	—
その他	7,496	17,755
営業外収益合計	11,955	25,144
営業外費用		
支払利息	24,212	22,343
その他	7,291	34,496
営業外費用合計	31,503	56,840
経常損失(△)	△45,377	△58,932
特別利益		
固定資産売却益	—	15,054
役員退職慰労引当金戻入額	—	70,340
特別利益合計	—	85,394
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△45,377	26,461
法人税、住民税及び事業税	4,332	3,968
法人税等調整額	△2,588	△2,929
法人税等合計	1,744	1,038
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△47,121	25,423
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△47,121	25,423

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年11月1日 至平成26年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△47,121	25,423
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,737	1,045
繰延ヘッジ損益	1,200	△28
その他の包括利益合計	17,937	1,017
四半期包括利益	△29,184	26,440
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△29,184	26,440
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年11月1日至平成25年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	アミューズ メント事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高					
外部顧客への売上高	1,594,030	410,934	195,121	22,046	2,222,132
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,594,030	410,934	195,121	22,046	2,222,132
セグメント利益又は損失(△)	△9,383	5,253	12,167	13,916	21,954

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	21,954
セグメント間取引消去	3,788
全社費用(注)	△51,573
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△25,830

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年11月1日 至 平成26年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	木材事業 (千円)	ハウス・ エコ事業 (千円)	アミューズ メント事業 (千円)	不動産事業 (千円)	合計 (千円)
売上高					
外部顧客への売上高	1,602,967	351,338	183,567	20,721	2,158,596
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,602,967	351,338	183,567	20,721	2,158,596
セグメント利益又は損失(△)	19,405	△26,972	7,621	12,217	12,272

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	12,272
セグメント間取引消去	3,731
全社費用(注)	△43,240
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△27,237

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。